

ローゼ・クラン台本_Story4

薔薇の十字架 後編

収録形式

フォルダ名 : rc_04-2_キャラクター名

ファイル名 : 台詞番号_04-2

収録形式 : 44100hz 16bit モノラル wav

台詞数

◆総台詞数 : 416

◆内訳

オルトヴィーン	: 107
アンネローゼ	: 77
パトリス	: 165

ジョスリーヌ	: 40
ハイゼンベルク	: 14
ナターリエ	: 6

少年3	: 3
-----	-----

少年4	: 4
-----	-----

番号	キャラ名	台詞	ト書き
Scene1			
オルトヴィーンの寝室。パトリスがベッドの上で眠っている。			
001	オルトヴィーン	……	パトリスの髪を撫でている
002	オルトヴィーン	……電話？ まったく、こんな時に……	突然、階下で電話が鳴る。階下へ行く
003	オルトヴィーン	ハロウ？ ……やっぱり貴女ですか。すみません、今は街を離れられなくて……どうしても、と言われても、ね……今とても大事な時期なんです。だから今回は…… ……はあ……一日だけ、ね。 本当に一日だけで帰してくれるんでしょうね。 ……分りましたよ。行けば良いんでしょう。 でも、絶対に一日だけ、ですから。それを破ったら…貴女と言えど、許しませんよ。	電話している 電話を終える
004	アンネローゼ	兄さま	やってくるアンネローゼ
005	オルトヴィーン	アンネ	アンネローゼのほうに振り返る
006	アンネローゼ	……パトリスの香りがするわ。 あの子、今家（うち）にいるのね	
007	オルトヴィーン	ああ、そうだよ。 ふふ……驚いたよ、彼からここに来たいと言ったんだ。	
008	アンネローゼ	そう…珍しく私の勘は外れちゃったのね、残念。 それより……今の電話	
009	オルトヴィーン	ああ、……いつもの、だよ。 まったく、あの夫人の我儘には参るよ。	
010	アンネローゼ	行くの？	
011	オルトヴィーン	ああ、一日だけね。 来なきゃお前のいる街に行ってお前たちのことを言いふらすぞ、なんてことまで言いだしてね。 ただの脅しだろうけど、本当にやりかねない人でもある。 今そんなことをされるのは流石に困るからね……仕方がない。	うんざりしている
012	アンネローゼ	そう。 パトリスはどうするの？	
013	オルトヴィーン	そうだね……傍にいてあげると言ったのに、いきなり約束を反故にするのは申し訳ないな……	
014	アンネローゼ	私が見ていてあげるわ 明日からは天気も良いでしょうし……あの子と少し、話がしたいの	
015	オルトヴィーン	そうかい、それじゃあ、アンネ、頼むよ。 ……彼は今とても弱っているらしい。どうか優しく包み込んであげて	
016	アンネローゼ	分かったわ。	
Scene2			

番号	キャラ名	台詞	ト書き
017	パトリス	……オルトヴィーン？	目覚めた
018	パトリス	オルトヴィーン？ オルトヴィーン……どこに……	布団を探るがオルトヴィーンの姿がなく不安に階下へと向かう
019	パトリス	オルトヴィーン……？	
020	アンネローゼ	起きたの	
021	パトリス	！ ア、アンネローゼ……	驚く
022	アンネローゼ	兄さまならないわ 急遽、外出しなくてはいけなくなったの。明日までには帰るそうよ。……傍にいてあげられなくてごめん、って、とっても謝っていたわ。	
023	パトリス	そ、そう……	少し残念、寂しい。悲しい。
024	アンネローゼ	隣にいらっしゃいよ	
025	パトリス	う、うん……	アンネローゼの隣に腰掛ける
026	アンネローゼ	兄さまに聞いたわ 昨夜、あなたからここに来たいって言ったんですってね	
027	パトリス	あ、ああ……まあ……	
028	アンネローゼ	ずいぶん弱っているようだって。 ふふ、……今のあなたからは、前にはあった棘を一切感じない……本当に弱っているみたいね	
029	パトリス	……	
030	アンネローゼ	一体何があったのかしら？	
031	パトリス	大したことじゃ……ただ……家にいたくなくて……家に居場所がなくて、……それだけ	
032	アンネローゼ	そう。 そういうことも、あるわよね	
033	パトリス	……オルトヴィーンも君も、叱らないんだ	
034	アンネローゼ	叱る？	
035	パトリス	家に帰れ、親が心配してるぞ、とかさ……言わないんだなと思って	
036	アンネローゼ	言わないわよ だって、そもそも私たちに心配してくれる親がいないし、それに、親のいない世界の方がずっと快適なもの	
037	パトリス	……	

番号	キャラ名	台詞	ト書き
038	アンネローゼ	私たちは何にも縛られない。「時」にすら、ね。 そうやって生きてきたのよ、ずっと。	
039	パトリス	……君たちがどうやって知り合ったか、聞いても良い？ 不思議なんだ、二人とも僕とそんなに年が変わらない……君なんかは恐らく僕より年下だ。それなのに、二人きりで……どうして……	
040	アンネローゼ	そうね……話すとき長くなるの。 だから全部は、すぐには話してあげられないけれど……	紅茶の入ったカップを持ち上げる
041	アンネローゼ	私は、私の家で邪魔な存在だった。	淡々と語り出す
042	パトリス	……	
043	アンネローゼ	勿論それを口に出して言う人なんていなかったわ。一応はお嬢様、だったからね。 でも、皆が私を疎ましく思っていた。何故かと言うと、私が、あの家の旦那様の妾（めかけ）の子、だったから。	
044	パトリス	妾の……	
045	アンネローゼ	旦那様の本妻は、元々身体の弱い人でね、子どもがつかれなかったの。だから本妻が死んだあと、実質私があの家を継ぐ権利を得てしまった。でも妾の子よ、反対する者がたくさんいたわ。「穢れた血」にあの家を継がせるなんて、とか言ってね。……幼い私に直接言ってくるような下品な人間はいなかったけど、でも、そういう空気って分かるものよね。 明らかに、疎ましがられている空気。	
046	パトリス	ああ、うん……分かる、よ……僕も似たようなものだから	
047	アンネローゼ	ふふ、そんなときに兄さま……オルトヴィーン様と出会ったの。 オルトヴィーン様は、孤立していた私の傍にずっといてくれた。孤独を埋めてくれた。だからお願いしたの。貴方と一緒に連れて行って、って。そうしたら、兄さまは了承してくれた。……そして今、”アンネローゼ”はここにいる。	
048	パトリス	……一番気になるのは、どうしてオルトヴィーンと出会ったか、そして彼についていくことになったか、ってところなんだけど	
049	アンネローゼ	ふふ、それは内緒 本当にとっても長い話なのよ。 でも、そうね……	アンネローゼ、パトリスの首筋に指を添わす
050	パトリス	！	どきっとする
051	アンネローゼ	あなたがもし……一緒に来るといふのなら、いつか教えてあげるわ	
052	パトリス	一緒に？	
053	アンネローゼ	そう。 ……ああ、でもこれは、私が言っちゃだめね。兄さまから……ふふ、プロポーズしなきゃ	
054	パトリス	プ、プロ……？！	動揺
055	アンネローゼ	ふふふ！ 兄さまからの言葉は、プロポーズのようなものよ 本当に大事にしてくれるもの。 でも、気を付けて。彼はお人好しだから……あなたのように脆い棘を持った人間は、すぐ好きになっちゃう……きっと苦勞するわ	
056	パトリス	……ぼ、僕は別に、そういう趣味を持っているわけじゃないんだけど、	
057	アンネローゼ	そうなの？ でも昨日……兄さまから友愛の証を受け取ったんじゃないかって？	

番号	キャラ名	台詞	ト書き
058	パトリス	！！ な、なんで……見てたの？	動揺
059	アンネローゼ	いいえ。 でも、分かるわ。 あなた、もうすっかり兄さまに夢中。 みんなそうなの、みーんな、兄さまに夢中になってしまう…だから困っちゃうの。兄さまは私のものなのに。 ふふふ！	楽しそうに
060	パトリス	……	
061	アンネローゼ	さあ、パトリス。 今日はどうするの？ 兄さまは、あなたの好きなようにしなさいと言っていたわ。学校へ行くもよし、家（うち）にいるも良しって	
062	パトリス	……ここにいても、良い？	
063	アンネローゼ	ええ、いいわ。 兄さまが良いと言ったから。 兄さまが帰ってくるまでここにいらっしゃよ。そのほうが兄さまも喜ぶわ。	
064	パトリス	そう、だね…… 帰って来たら、約束を破ったことを責めてやらないと	
065	アンネローゼ	ふふふ！ そうね、それがいいわ	
066	パトリス	……………あ、そ、そうだ……昨夜、臥せっていたって聞いたけど…体調は大丈夫なの？	
067	アンネローゼ	ええ、雨さえ降らなければ平気。 ありがとう、あなた、人を心配できるのね	少しからかい気味に
068	パトリス	あ、当たり前だろ…… いや、当たり前じゃないのかも……僕は結構最低なんだ…	落ち込み
069	アンネローゼ	ふうん？ まあ、確かにそうね 兄さまの顔をあんなにボロボロにしたんだもの	まだ根に持っている
070	パトリス	そ、それは本当にごめん……	慌てる、落ち込み
071	アンネローゼ	ふふふ、良いのよ。 もう許してあげることにしたの。 あなたのこと、私も気に入ったから。	パトリスを抱きしめる
072	パトリス	え…………… ！！ あ、アンネローゼ、	抱きしめられて動揺
073	アンネローゼ	アンネ、で良いわ…… ふふ、兄さまがあなたを気に入った理由……最初はよく分からなかったけど…今やっとわかったわ	
074	パトリス	え……？	
075	アンネローゼ	あなた本当に孤独なのね こうやって触れたら分かるわ……心にぽっかり穴が空いてる……あの時の私と一緒に	優しく
076	パトリス	……	
077	アンネローゼ	兄さまがこの穴を埋めてくださるわ……たまにこうやって約束を破ったりもするけれど。 ……大丈夫、兄さまを信じなさい。	優しく
078	パトリス	オルトヴィーンを……信じる……	

番号	キャラ名	台詞	ト書き
079	アンネローゼ	そう。 兄さまを信じれば、あなたは救われる……そしてきっと、いつか兄さまの言葉に頷くでしょう。	優しく
080	パトリス	……	
081	アンネローゼ	あなた、兄さまが好き？	動揺
082	パトリス	えっ！ す……好き、……き、嫌いじゃないけど、……	
083	アンネローゼ	ふふ、素直におなりなさい。 もう兄さまに心を奪われているはず	動揺
084	パトリス	……	
085	アンネローゼ	良いのよ、それで。それでいいの。 そうすれば、あなたも行けるわ	
086	パトリス	どこに？	
087	アンネローゼ	「時を超えた先」に——……	
場面転換 ベルリオーズ家			
088	ハイゼンベルク	パトリスはどこへ行ったのだ？！	うろうろと歩き回る。苛立っている
089	ジョスリーヌ	お父様、	
090	ハイゼンベルク	結局夜が明けても帰らない！ 学校にも行っていないようじゃないか！	苛立っている
091	ジョスリーヌ	お父様、落ち着いてください、ね？	
092	ハイゼンベルク	どうしてあの子はあるに聞き分けがないのだ？！ 父親が死んでから私がどれだけあの子に心を尽くしてきたと思っている？！ もっと大人しく私の言うことを聞いていればよいものを…！	苛立っている
093	ジョスリーヌ	お父様！	
094	ジョスリーヌ	大丈夫、パトリスは戻ってきますわ。 時間はかかるかもしれないけれど…必ず、一度は戻ってきます。	父の怒りを制止するように ハイゼンベルク、思わず足を止める
095	ハイゼンベルク	何故わかる？	
096	ジョスリーヌ	彼は…そういう方です。 ずっとお傍で見ていたのですから、分かります。……だからどうか、彼が戻ってきても、責めないであげてください、ね…？	
場面転換 夜。 オルトヴィーンとアンネローゼの家 オルトヴィーンが帰ってくる			
097	アンネローゼ	！ 兄さま！	嬉しい

番号	キャラ名	台詞	ト書き
098	パトリス	！	
099	オルトヴィーン	やあ、待たせたね	歩み寄ってくる
100	アンネローゼ	ああ、お帰りなさい、兄さま！ 思ったより早かったわね	オルトヴィーンに駆け寄る
101	オルトヴィーン	うん、なんとか早めに切り上げてきたよ。 おや、パトリス、良かった、まだ居たんだね	
102	パトリス	…う、……あ……まあ……	少し恥ずかしい
103	オルトヴィーン	ごめんね、傍にいてあげると言ったのに	
104	パトリス	べ……別に	
105	アンネローゼ	あらパトリス、兄さまが帰って来たら「約束を破ったことを責めてやる」んじゃないの？	からかい気味に
106	パトリス	う……	言葉に詰まる
107	オルトヴィーン	ふふふ……責められても仕方のないことをしたからね いくらでも責めてくれて構わないよ	
108	アンネローゼ	そうよ 責めていいのよ	
109	パトリス	あ……う……べ、べつに、…帰ってきたから、もう良い……	
110	オルトヴィーン	そう？ 君が怒ってなくて良かったよ	
111	アンネローゼ	なんだ、つまらないわね…ふふふ！ ああ、兄さま、疲れているんじゃないかって？ アンネが紅茶を淹れてきてあげるわ	
112	オルトヴィーン	ああ、そうしてくれると嬉しいな 頼むよ、アンネ	
113	アンネローゼ	はい	紅茶を淹れに行く
114	オルトヴィーン	さて、パトリス……本当にごめんね	隣に腰掛ける
115	パトリス	べ、別に良いって言ってるだろ	
116	オルトヴィーン	ふふ…… アンネとはうまくやっていたみたいだね	
117	パトリス	ま、まあ……多分……	
118	オルトヴィーン	それは良かった。 さあ、今日は一日傍にいてあげられなかったぶん、今夜こそは傍にいてあげるから	

番号	キャラ名	台詞	ト書き
119	パトリス	……本当、だろうね？	うかがうように
120	オルトヴィーン	本当だよ もう急用は暫くおとずれないさ、今日済ませてきたんだから。 だからほら、	パトリスを抱き寄せる
121	パトリス	！	ドキドキする
122	オルトヴィーン	ふふ……君の身体はとても暖かいね	しっかりとパトリスを抱きしめながら
123	パトリス	……オルトヴィーンの身体は、ずいぶん冷たい、けど……	
124	オルトヴィーン	……。 僕は人より体温が低いからね……	
125	パトリス	……。 ……（ん…何だろう……何か違和感が……）	() =心の声
126	オルトヴィーン	どうかした？ パトリス	
127	パトリス	え、いや、別に……（何かがおかしい気がする……でも、何が……？）	
128	オルトヴィーン	そう？ なんだか不思議そうな顔をしているけど……気になる事でもある？	
129	パトリス	……ううん、平気（まあ別に、良い、か……落ち着くし……）	
130	アンネローゼ	……あら、お邪魔だったかしら	お茶を持ってくる
131	パトリス	！！	抱き合っているのを見られて恥ずかしい
132	アンネローゼ	ふふ、別にそんなに照れなくても大丈夫よパトリス。 慣れてるわ。 ……はい、お紅茶。	カップを置く
133	オルトヴィーン	ありがとう、アンネ	
134	アンネローゼ	ふふふ！ パトリスのぶんも淹れてきてあげたわ。 飲むでしょう？	
135	パトリス	あ…あり、がとう……	アンネローゼ、カップを置いてソファに腰掛ける
136	パトリス	……ハイゼンベルク、怒ってるだろうな	ぼそりと
137	オルトヴィーン	なに？	
138	パトリス	僕の伯父だよ 昨日から家にも帰らず、学校にも行かず……帰ったら数時間は説教されそうな気がするよ	うんざりとして
139	アンネローゼ	ふふ…じゃあ、帰らなければいいじゃない。	

番号	キャラ名	台詞	ト書き
140	パトリス	それは…… ……それは、駄目、だよ……母様が……心配するから……	
141	オルトヴィーン	そう……それは残念だ。 僕としては、君にずっとここにいてほしいんだけどな。	
142	パトリス	え……	
143	オルトヴィーン	僕たちと一緒にいるのは嫌？	
144	パトリス	う、ううん、嫌じゃない……	
145	オルトヴィーン	ふふ、それは良かった。 でも、君のお母様を大事にする気持ちを尊重するよ。 だけど今夜までは泊っておいき。もう夜も遅いからね	
146	パトリス	うん……あ、あの、オルトヴィーン、	また一緒に眠ってほしいと言いたいが言い淀む
147	オルトヴィーン	いいよ、また一緒に眠ってあげる	察して、優しく。
148	パトリス	……あ、……ありがと、	照れている
149	アンネローゼ	……兄さまったら、本当にお手が早いんだから……ふふふ	楽しい

Scene2

翌朝、家に戻ってきたパトリス

150	ジョスリーヌ	！ パトリス！ ああ、お帰りなさい、良かった、ちゃんと戻ってきてくださったのね	嬉しい
151	パトリス	……	歩き出す
152	ジョスリーヌ	きっとあなたは戻って来ると信じていたわ。お父様のことは心配しないで、私が宥めておいたから……ナターリエ様にもまだ気づかれていないの。だから安心をして	後を追いつながら
153	パトリス	……ジョスリーヌ	立ち止まる
154	ジョスリーヌ	え？	立ち止まる
155	パトリス	……もしかして、2日間、寝ずに僕を待ってた？	
156	ジョスリーヌ	え……ど、どうして？	驚き
157	パトリス	目の下のクマが凄いから	
158	ジョスリーヌ	あ……	

番号	キャラ名	台詞	ト書き
159	パトリス	……………ありがとう	ぼそっと 歩き去っていく
160	ジョスリーヌ	！ パトリス……？	お礼を言われて吃驚
161	ジョスリーヌ	パトリスが私にお礼を……一体どうしたのかしら…… それに、なんだかいつもより、雰囲気柔らかかったような気がするわ……	でも嬉しい
場面転換 学園の廊下			
162	少年4	……ベルリオーズだ	嫌そうに
163	少年3	避ける！	少年二人、廊下の端に避ける
164	パトリス	……………	どことなくぼんやりとして通り過ぎる
165	少年4	……？ なんかあいつ、様子変じゃなかったか？	ひそひそ
166	少年3	確かに……いつもみたいなのげとげしい雰囲気がないっていうか……	ひそひそ
167	少年4	なんかあったのか？	ひそひそ
168	少年3	さあ？ まあ、俺たちには関係ねーよ	ひそひそ
169	少年4	そうだな……	ひそひそ
場面転換 学園の中庭。気持ちの良い風が吹いている……			
170	パトリス	オルトヴィーン……	オルトヴィーンに想いを馳せる
171	パトリス	……父様、あのね……僕、友達ができたよ……オルトヴィーンとアンネローゼというんだ 二人ともすごく綺麗でさ……それから……僕の傍に、いてくれるんだって……一緒にいてくれたら嬉しいって……	ロザリオを取り出し、話かける
172	パトリス	もう、僕、ひとりぼっちじゃ、なくなったよ、父様……	少し嬉しそうに。ロザリオを抱き締める
173	オルトヴィーン	やあ、素敵なロザリオだね	歩いてくるオルトヴィーン
174	パトリス	！	驚き、でもちょっと嬉しい
175	オルトヴィーン	ふふ……またこっそり入れてもらっちゃった	
176	パトリス	オルトヴィーン…！	嬉しくて思わず抱き付く
177	オルトヴィーン	お、っと…… どうしたの？ また何か悲しいことでもあった？	

番号	キャラ名	台詞	ト書き
178	パトリス	ううん、そうじゃないんだ……ただ……	(嬉しくて) 甘える パトリスを抱きしめ返す 甘えながらも違和感
179	オルトヴィーン	ただ？	
180	パトリス	……少しだけ、こうしてて	
181	オルトヴィーン	良いよ、抱きしめていてあげる。	
182	パトリス	…… (やっぱり、違和感がある……何だろう、これ……)	
183	オルトヴィーン	パトリス？	
184	パトリス	オルトヴィーンって不思議だ	
185	オルトヴィーン	そう？	
186	パトリス	そうだよ ……アンネも同じくらい。 ……とにかく君たちは不思議だ。	
187	オルトヴィーン	ふふ……そうかもね	
188	パトリス	(こんなに落ち着くのに……どこか、どこかおかしいような気がするの、何故……?)	
場面転換 家に帰ってきたパトリス			
189	パトリス	……ただいま	駆けていく 嬉しい
190	ジョスリーヌ	お帰りなさい、パトリス ……ナターリエ様が呼んでいらしたわ	
191	パトリス	！ すぐ行く！	
192	ジョスリーヌ	ふふ、相変わらずナターリエ様のことになると一直線。 ……なんだか最近、とても幸せそう……家を空けている間に、何か良い事があったのかしら。……それなら、良かった。	
場面転換 母の部屋			
193	パトリス	母様、	部屋に入り、ナターリエに近づく パトリスの頭を撫でながら
194	ナターリエ	ああ、パトリス……急にお前の顔が見たくなって……ごめんなさいね、帰ってきて早々……	
195	パトリス	良いんだよ、全然	
196	ナターリエ	なんだか久しぶりに顔を見た気がするわ……ここ数日、勉強に励んで部屋に籠っていたんですってね。ふふ、良い子ね。	

番号	キャラ名	台詞	ト書き
197	パトリス	え？ ……（あ、なるほど、そう言い訳してくれていた、ってわけか） …… ああ、うん、そうなんだ。早く立派な大人になって、…この家を継がなきゃいけないから……	
198	ナターリエ	そう……お前にはずいぶんと重たいものを背負わせてしまっているわ…私がもう少し丈夫だったら……ゲホッ	咳き込む
199	パトリス	母様！ ……良いんだ、良いんだよ、僕は母様が生きていてくれさえすればそれで良いんだから、	ナターリエに抱き付く
200	ナターリエ	パトリス……	ナターリエ、パトリスの頭を撫でる
201	パトリス	（そう……母様が生きていてくれさえすれば…… ……ん？ 生きて……？）	

抱き付いた母の胸から、心臓の鼓動が聴こえる……

202	パトリス	……！（そう、だ……）	気づき
203	ナターリエ	？ どうかしたの、パトリス……？	
204	パトリス	う、ううん、なんでもない……	鼓動が聴こえる……
205	パトリス	（そうだ……分かった……違和感の正体……！ ……オルトヴィーンに抱きしめられても…心臓の音が、まったく、しなかった……！）	気づいてしまうパトリス

Scene3

薔薇園で薔薇を手折るパトリス

206	パトリス	此処に来るの、久しぶりな気がするな…… ……。 父様……	ロザリオを取り出す
207	パトリス	……友愛の証だと言って、彼は僕の首に口付けをした……そして…心臓の音が、しない……まさかとは、思うけど…… ……父様。 父様の形見を、こんなことに使うのを、どうか、お許してください……	ロザリオを握りしめる
208	オルトヴィーン	……やあ、ここで会うのは久しぶりだね	歩いてくるオルトヴィーン
209	パトリス	！！	
210	オルトヴィーン	そんなに驚かなくても……どうしたの？	
211	パトリス	……オルト、ヴィーン……	少し震えている、オルトヴィーンにロザリオを差し出す
212	オルトヴィーン	なに？ ……え？ ロザリオ？	ロザリオを差し出された
213	パトリス	……	冷や汗が流れる

番号	キャラ名	台詞	ト書き	
214	オルトヴィーン	これ、この間学園の中庭でも持っていたロザリオだよね……何、くれるのかい？	オルトヴィーンの様子をうかがう	
215	パトリス	……え、えっと……ま、まあ……		
216	オルトヴィーン	本当に綺麗なロザリオだ こんな細かい薔薇の細工がされているなんて、とても良い物だと思うんだけど……本当に貰ってもいいの？		
217	パトリス	あ、……ああ……	オルトヴィーンの様子をじっと伺っている	
218	オルトヴィーン	ありがとう、嬉しいよ	ロザリオを受け取る	
219	パトリス	そ、そう……喜んでくれたなら良かった	心配	
220	オルトヴィーン	……パトリス？ 何か様子がおかしい気がするけど、何かあった？		
221	パトリス	い、いや、べつに！ ……そ、それじゃ、僕、母様に薔薇を渡さないといけないから！		走り去っていく…
222	オルトヴィーン	……。 ……………気づかれた、かな…？		
場面転換 パトリスの部屋				
223	パトリス	……やっぱり、気のせい、なのか……？ 普通にロザリオを受け取った…… ……だけど、でも、じゃあ……あいつは……オルトヴィーンは…一体何なんだ……？	ベッドに腰掛け、頭を抱える……	
224	パトリス	分からない……分からないよ……もしオルトヴィーンが……ただの人間じゃなかったら、僕は一体、どうすればいい……？		
場面転換 オルトヴィーンとアンネローゼの家				
225	オルトヴィーン	ただいま、アンネ	オルトヴィーンがロザリオを持っていることに 気づき怯える	
226	アンネローゼ	お帰りなさい兄さま！ ……あら、何を持っていて……！		
227	オルトヴィーン	そんなに怯えなくても大丈夫だよ		
228	アンネローゼ	い…いやよ、私、それは苦手なの		怯えている
229	オルトヴィーン	知ってる。 でもこれ、パトリスがくれたんだ		
230	アンネローゼ	ど…どうということ？ いやがらせ？		怯え
231	オルトヴィーン	まさか、……いや、どうだろう……もしかしたら彼は、僕たちの事に気づいたのかもしれない		
232	アンネローゼ	だ、だとしたら、それは宣戦布告なのではなくって？ ……ああ、お願い兄さま、今すぐそれを仕舞って…捨ててとは言わないから！		怯え

番号	キャラ名	台詞	ト書き
233	オルトヴィーン	ふふ…君は本当にこういうのが苦手なんだね まあ、無理もない……僕も慣れるまでとても苦労したもの	ロザリオをポケットにしまう
234	アンネローゼ	……もし、もしあの子が私たちのことに気づいたのだとしたら……兄さま、どうなさるの？	ロザリオが仕舞われたことで少し落ち着く
235	オルトヴィーン	そうだね……ひとまず彼がどうするか……様子を見るしかないな……	
236	アンネローゼ	もし誰かに言いふらして、この家に人間たちがきたら……	
237	オルトヴィーン	そのときは、逃げるしかないね	
238	アンネローゼ	……そうよね いつもと、同じだわ	
239	オルトヴィーン	うん、そうだよ	
240	アンネローゼ	でも、残念。 パトリスのこと、私も気に入ったところだったのに	
241	オルトヴィーン	そうだね、残念だ。 でも、まだ分からないよ……	

場面転換 夜、パトリスの部屋

242	パトリス	……眠れないな……	ベッドの上でもぞもぞ動く
243	パトリス	あ……そうか、ロザリオ、あいつにあげたんだ……	胸元を探ってロザリオがないことを思い出す
244	パトリス	……はじめてできた、友達……オルトヴィーンは、唯一僕の心を理解してくれるような……そんな気がするんだ……でも……	

アンネローゼ「兄さまを、信じなさい」
 アンネローゼ「兄さまを信じれば、あなたは救われる…… そしてきっと、いつか兄さまの言葉に頷くでしょう」

245	パトリス	オルトヴィーンを信じると、アンネローゼは言った……信じて……良いのかな…… ねえ教えてよ、オルトヴィーン……君を信じていいのか、どうか——……	夜が更けていく……
-----	------	--	-----------

Scene4

薔薇園のある林の中を歩くパトリス

246	パトリス	あれから一週間……オルトヴィーンにもアンネにも会ってない……父様のロザリオもない…… すごく……寂しい……	
247	パトリス	ここで毎日薔薇を手折っていても、オルトヴィーンは来ない…… もしかして、僕があげたロザリオで何かあったとか……もしそうだとしたら……	薔薇を手折るパトリス
248	パトリス	……やっぱり僕には、何もないんだろうか……	

番号	キャラ名	台詞	ト書き
場面転換 家に戻ってきたパトリス			
249	ジョスリーヌ	ああ、お帰りなさい、パトリス あら、また素敵な薔薇を……その薔薇、一体どこに咲いているのですか？	
250	パトリス	……	暗い顔で階段を上がっていく
251	ジョスリーヌ	……。パトリス、また、暗い顔をしていた……	心配
252	ハイゼンベルク	……む、パトリス	階段を上った先で出会う
253	パトリス	……	
254	ハイゼンベルク	まったく、お前はいつもフラフラと…… おや、その薔薇は？	
255	パトリス	……	無視して去ろうとする
256	ハイゼンベルク	こら、パトリス！ 私を無視するんじゃない。 お前は どうしていつも そうなんだ？	苛立ち
257	パトリス	……	ため息を吐き、立ち止まる
258	ハイゼンベルク	一体何が不満だというのだね？ 私に話してみなさい、必要なものがあるならなんでも揃えてあげようじゃないか。それとも、私がこの家にいるのが不満かね？ だが今の君にこのベルリオーズ家をどうにかできるとは思えん！ だから私が代わりに、	
259	パトリス	分かってるよ、そんなの……	歩き出す
260	ハイゼンベルク	パトリス！	呼び留めるが、パトリスは行ってしまう
261	パトリス	母様……	母の部屋の扉をノックし、部屋に入る
262	ナターリエ	(寝息)	眠っている
263	パトリス	あ……眠ってる じゃあ、薔薇の花だけ、いれかえておこう……	花の入れ替えをする
264	パトリス	……この薔薇……ただ水に浸けているだけなのに、何日経っても枯れない……本当に不思議な薔薇だ…… ……まるで時間が止まっているかのよう……。 ……	ふとアンネローゼの言葉を思い出す
アンネローゼ「私たちは何にも縛られない 「時」にすら、ね。 そうやって生きてきたのよ、ずっと」			
265	パトリス	彼らも……この薔薇と、同じなんだろうか……	薔薇を見つめて呟く
場面転換 オルトヴィーンとアンネローゼの家			
266	アンネローゼ	あれから2週間経ったけど、特に何も起きないわね	

番号	キャラ名	台詞	ト書き
267	オルトヴィーン	そうだね	上の空
268	アンネローゼ	本当に、なーんにも起きない パトリスが会いにくるわけでもないし……退屈	
269	オルトヴィーン	うん	上の空
270	アンネローゼ	……兄さまは、上の空。本当に、お気に入りができる夢中になっちゃうんだから、……もう。	紅茶の入ったカップを持ち上げる
271	アンネローゼ	(紅茶を飲む) ……薔薇のお紅茶だけは相変わらず美味しい。 素敵。	
272	オルトヴィーン	うん	上の空
273	アンネローゼ	別に今のは兄さまに話しかけたわけじゃないのよ。 まあ、良いけれど。 ……どうするの、兄さま。	
274	オルトヴィーン	……そろそろ、だと思っただけど……	ぽつりとつぶやく
275	アンネローゼ	え？ ……！ もう、それを見せるのはやめて……本当に怖いんだから	オルトヴィーンがロザリオを取り出し、また怯える
276	オルトヴィーン	ごめん	
277	アンネローゼ	……兄さまがここまで惚けるのなんてはじめて見たわ そんなにパトリスのことが気に入ったのね	
278	オルトヴィーン	まあ……そうだね	
279	アンネローゼ	だったら、会いに行けばよろしいじゃない。 案外パトリスも待っているかもしれないわよ？	
280	オルトヴィーン	……それもいいかもしれないね	立ち上がる
281	アンネローゼ	……	
282	オルトヴィーン	少し、行ってくるよ。	オルトヴィーン、外へ……
283	アンネローゼ	ええ、行ってらっしゃい。	
284	アンネローゼ	……パトリス、あなた、もう、きっと逃げられないわよ。	
場面転換 パトリスの部屋 雷が鳴りはじめる……			
285	パトリス	雨……降るのかな……雨が降ったら母様が不安になる……でもどうせ部屋に行ったって、ハイゼンベルクの奴がいるんだ…… ……そういえば、アンネローゼも雨になると臥せってしまうって言ってたな……	ベッドの上でゴロゴロ
286	パトリス	……オルトヴィーン……	ぽつりと

番号	キャラ名	台詞	ト書き	
287	オルトヴィーン	呼んだかい？	驚き、飛び起きる	
288	パトリス	！？		
289	パトリス	い、…一体どこから、		
290	オルトヴィーン	久しぶりだね、パトリス		
291	パトリス	あ、ああ……うん……		
292	オルトヴィーン	隣に座ってもいいかい？		
293	パトリス	ど、……どう、ぞ……		
294	オルトヴィーン	これを、		パトリスの隣に腰掛け、ロザリオを取り出す
295	パトリス	！ 父様のロザリオ……		
296	オルトヴィーン	これ、君のお父様のだったんだ。 それなのに僕にくれて……良かったの？		
297	パトリス	……		
298	オルトヴィーン	それとも本当は、僕にくれるつもりじゃなくて……何か別の意味があったのかな	ぎくりとする	
299	パトリス	……！		
300	オルトヴィーン	……ねえ、君は僕の事をどう思っている？		
301	パトリス	ど、どうって……そんなの、……そんなの、分からない……いや、違う……はじめは、友達だと思ってた…でも今は、……今は、		
302	オルトヴィーン	今は？		
303	パトリス	今は…分からないんだ！ 君は一体なんなんだ？ 気づいたんだ、君の、…君の心臓が動いていないこと！ 君に抱きしめられた時、なぜか違和感があって、それが、心臓の音が聴こえないからだって気づいた！ どうして？ どうして動いてないの？ 君は、生きていないの？		必死に
304	オルトヴィーン	生きているさ 現にこうやって、君と会話しているし、触れることもできる		
305	パトリス	っ…冷たい手だ……氷みたいな……初めて触れた時も思った……すごく冷たい……		
306	オルトヴィーン	そうだよ 僕の身体はとても冷たい 僕が何者か、知りたい？		
307	パトリス	し……知りたく、ない……		

番号	キャラ名	台詞	ト書き
308	オルトヴィーン	……	
309	パトリス	でも、これだけは知りたい…… 僕は、君を、信じていいの？	泣きそうになる
310	オルトヴィーン	……	
311	パトリス	アンネローゼは、君を信じると言った……そうしたら救われるって…… ねえ、教えて 教えてよ！ 僕は君を信じていいの？ 君に全部…委ねて、いいの？	泣きそうになりながら必死に
312	オルトヴィーン	パトリス、	パトリスを抱き寄せる
313	パトリス	あっ……	
314	オルトヴィーン	それは君が決めることだ。 でも僕は、君が僕を信じてくれるというのなら、必ず君を救ってあげるよ。 僕のすべてを賭けてでも。 それは約束しよう。	
315	パトリス	……	
316	オルトヴィーン	ロザリオ、ひとまず返すよ。 アンネがこれを見ると怖がるんだ。それにお父様のものなら、とても大事なものだろうし。 ……どうかゆっくり考えてほしい。 君の答えによっては……僕は君の前から姿を消すよ	ロザリオをパトリスに握らせる
317	パトリス	そんな、	
318	オルトヴィーン	僕は待っているよ、君の答えを。 ……それじゃあね	
319	パトリス	え、ま…待って、	
外で、雷が落ちる。 それと同時に、オルトヴィーンは消えた……			
320	パトリス	……いなく、なった…… ……。 父様……っ	ロザリオを握りしめる 雨が激しく降り始めた……
Scene5			
翌朝、いつの間にか眠ってしまっていたらしいパトリスは目覚める			
321	パトリス	…ん……いつの間にか、寝ちゃってたのか…… ……ロザリオ、ちゃんとある…… オルトヴィーン……僕……	
322	パトリス	な、何……？！	突然、扉を激しくノックされる
323	ジョスリーヌ	パトリス、パトリス……！	必死で呼びかける
324	パトリス	ジョ、ジョスリーヌ？ 一体何……	部屋の扉を開けに行く

番号	キャラ名	台詞	ト書き
325	ジョスリーヌ	良かった、起きていたのね…！ ナターリエ様が！！	必死
326	パトリス	！！！！	驚愕
場面転換 母の部屋			
327	パトリス	母様！！！！	部屋に飛び込む
328	パトリス	母様、母様……！！	母の身体を揺さぶる
329	ジョスリーヌ	パトリス、落ち着いて、	
330	パトリス	いやだ、母様……なんで、なんでこんな、急に……っ！！	泣き出しそう
331	ハイゼンベルク	パトリス、ジョスリーヌ、少し、出ていなさい。	部屋に入ってくる
332	パトリス	でも！	
333	ハイゼンベルク	これからお医者様に診てもらおう さあ、早く出なさい	
334	パトリス	いやだ、母様のそばにいる！！	必死
335	ジョスリーヌ	パトリス、行きましょう、お父様の言う通りに……	パトリスの手を掴み、部屋の外へ
336	パトリス	いやだ！ 母様、母様ぁ！！	部屋の外に出る
337	パトリス	かあさま……	泣いている
338	ジョスリーヌ	パトリス……	哀れみ
339	パトリス	どうして……どうして……	泣いている
340	ジョスリーヌ	分からないわ 急に容態が変わったの……昨夜まではお元気だったのに……	
341	パトリス	そんな…… っ……！	駆けだす
342	ジョスリーヌ	あ、パトリス……！	
343	ジョスリーヌ	……パトリス……このままじゃ……	パトリスが心配
場面転換 林の中			

番号	キャラ名	台詞	ト書き
344	パトリス	…っはあっ……っ うっはあ…… あっ！	林の中を走っている。途中、躓いて転ぶ
345	パトリス	うっ……うう……うう……	泣いている ロザリオを取り出す
346	パトリス	とうさま……どうか……どうか連れて行かないで…… おねがい……オルトヴィーン……たすけて……たすけてよお……	泣いている

場面転換 パトリスの家

347	ジョスリーヌ	………そう、ですか……	悲しい
348	ハイゼンベルク	こんなときにパトリスはどこへいった？！	苛立っている
349	ジョスリーヌ	仕方ありませんわ……私がパトリスの立場であったら、じっとなんてしてられませんもの	
350	ハイゼンベルク	しかしだな……！	
351	ジョスリーヌ	お父様、……お願いですから、もう、パトリスを責めないでください。 彼はとても孤独なのです。 私たちには理解できないほどに。	
352	ハイゼンベルク	……	
353	ジョスリーヌ	そんな彼が、お母様まで喪うとなったら……冷静でいられるはずがありません。 帰ってくるのを待ちましょう ……いえ、もしかしたら……	(もう帰ってこないかもしれない)
354	ジョスリーヌ	……お父様、少し、外出してきます……	椅子から立ち上がる

Scene6

夜の林の中、夜風に吹かれながらパトリスは一人泣いていた

355	パトリス	うっ……ううっ……	泣いている
356	オルトヴィーン	こんな夜更けに一人で泣いて……可哀想な僕の薔薇	
357	パトリス	！	
358	オルトヴィーン	一体、どうしたの？	
359	パトリス	オルトヴィーン！	オルトヴィーンに縋りつく
360	オルトヴィーン	……パトリス	優しく名前を呼ぶ
361	パトリス	母様が……母様が、しんじょう……	

番号	キャラ名	台詞	ト書き
362	オルトヴィーン	……	
363	パトリス	僕、一人になってしまう……一体どうしたら……こわいよ……たすけて、オルトヴィーン……	
364	オルトヴィーン	パトリス、 ……僕には、死を払いのけることはできない。……いや、できなくはないけれど、それは「生還させる」こととは少し違う だから君のお母様に、君の望む「助け」を与えることはできない	パトリスをそっと抱きしめる
365	パトリス	……	
366	オルトヴィーン	僕が与えられる「助け」は、君自身にもたらされるもの。「逃げ」に近く、「死」と同義。 それでも君は、僕に助けを乞う？	
367	パトリス	……………うん……	
368	オルトヴィーン	君は迷っていた。僕を信じるべきか否か。 その答えは、出たの？	
369	パトリス	うん……	
370	オルトヴィーン	そう。 それは、母親の死の恐怖から逃れるための、一時的なものではないね？	
371	パトリス	……	
372	オルトヴィーン	僕は君に後悔してほしくはないんだ。 確かに僕を求めてくれるのは嬉しい。でも君が、僕の元に来たことを悔いるのは嫌なんだ。	
373	パトリス	……オルトヴィーン……	
374	オルトヴィーン	本当に良いの？ よく考えてごらん	
375	パトリス	……僕、本当に最低な奴なんだ……誰の気持ちも考えないで、自分勝手に生きてた……でも君と出会って、変わったような気がしたんだ…… 僕を変えてくれた君を、僕は信じたい……それに、君がたとえ人間じゃなくても、いや、人間じゃないからこそ……僕を救ってくれる……そう思った	
376	オルトヴィーン	……	パトリスの話を聞いている
377	パトリス	僕にはもう、君しか残されていないんだ……君は傍にいてくれる、そうだろ……？	縋りつくように
378	オルトヴィーン	……うん、そうだよ 君が望むのなら、永遠に傍にいてあげられる	
379	パトリス	だったら……だったら僕を、「助け」て。	
380	オルトヴィーン	パトリス…… ……ならば、僕と一緒に、「時を超えた先」へ行こう。	
381	パトリス	それは一体、どんな場所なの？	

番号	キャラ名	台詞	ト書き
382	オルトヴィーン	ある意味では、たくさんのを失う場所。 だけど、故に、孤独も失える場所。	
383	パトリス	そこが君たちの生きる場所なんだね…？	
384	オルトヴィーン	そうだよ	
385	パトリス	それなら……そこへ、連れて行って……僕を……君たちと同じ場所へ……	
386	オルトヴィーン	お母様はもしかしたら助かるかもしれないよ。 それでも、本当に良いんだね？	
387	パトリス	良いんだ……僕が壊れてしまう前に……おねがい……	
388	オルトヴィーン	分かった、パトリス。 では、おいで。 ……ひとりぼっちは、寂しいからね。	オルトヴィーン、パトリスの首筋にそっと歯をたてる——……
雷が鳴り始め、そして雨が降る。			
場面転換 林の中、さまようジョスリーヌ			
389	ジョスリーヌ	雨が……降り始めた…… ！	遠くに何かを見つける、駆け寄る
390	ジョスリーヌ	これは、パトリスの、ロザリオ……？ どうしてこんなところに……この先に、いるのかしら……	ロザリオを拾い上げる 先へと進んで行く……
391	ジョスリーヌ	あ……	人影を見つける
392	オルトヴィーン	君は誰？	
393	ジョスリーヌ	私は、ジョスリーヌ・ハイゼンベルクと申します。 ……あなたが抱いているのは、パトリス・ベルリオーズですか？	
394	オルトヴィーン	そうだよ。 君は、パトリスのフィアンセかな	
395	ジョスリーヌ	ええ、そうです。 ……彼を、連れて行くのですか	
396	オルトヴィーン	うん	
397	ジョスリーヌ	あなたが、彼を救ってくれる人なのですね。 良かった……	
398	オルトヴィーン	……僕が一体何者で、どうしてパトリスがこうなっているのか、知りたくはないの？	パトリスはぐったりとしてオルトヴィーンに抱き上げられている
399	ジョスリーヌ	良いのです。 もし仮に、あなたが死神だったとしても……そのほうが、パトリスは幸せになれると思うから	
400	オルトヴィーン	そう	

番号	キャラ名	台詞	ト書き
401	ジョスリーヌ	……彼のお母様は、亡くなりました。 それを伝えるかどうかは、あなたにお任せします。……パトリスを、お願いします。	
402	オルトヴィーン	分かったよ、ジョスリーヌ。 ……君は、パトリスのことをちゃんと想ってくれていたんだね	
403	ジョスリーヌ	私なりに、彼の事を想って、考えているつもりでした。でも、所詮私は父の言いなり…操り人形。父に言われるがままに生きていただけの私に、彼のことを本当の意味で理解することはできない……それをパトリスも分かっていた。フィアンセでなければ、私が彼を見捨てていたかもしれないことだって	
404	オルトヴィーン	それはどうかな。君はそういう非情な娘（むすめ）には見えない。 まあ、たった今出会ったばかりの僕が判断できるようなことじゃないけどね。……では、僕は行くよ。 さよなら、ジョスリーヌ。	
405	ジョスリーヌ	ええ、さようなら。	
雷が鳴り、オルトヴィーンとパトリスは姿を消した。			
406	ジョスリーヌ	……この雨がすべてを、攫っていきますように。	
Scene7			
407	アンネローゼ	やっぱり、こうなると思ったわ	(Story1 の街)
408	オルトヴィーン	そう	
409	アンネローゼ	それで、これからどうなさるの？	
410	オルトヴィーン	彼が目覚めるまで、どこか平和で美しい街にしようと思う。 確か少し遠くの街に、昔両親が過ごしていたという家があった……あそこなら多分大丈夫だろう。	
411	アンネローゼ	そう。じゃあ、次はそこへ行きましょう。	
412	オルトヴィーン	うん、そうしよう。	
413	アンネローゼ	……ふふ、兄さまと二人きりも、これでおしまいなのね。それはそれで少し残念。	
414	オルトヴィーン	そうだね。 でもパトリスもいれば、もっと楽しく暮らせるさ	
415	アンネローゼ	そうだといいけれど。	
二人、歩き出す……			
416	オルトヴィーン	さあ、行こう 時を超えた先に——……	
END			